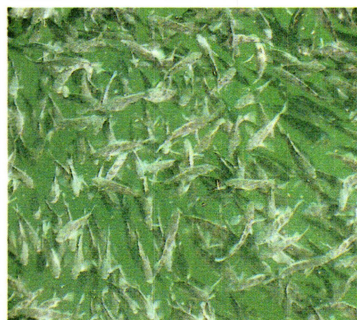


青森県水産増殖センター

センターだより



穏やかな春のセンター試験用筏風景

左：垂下養殖中のイワガキ。中：餌に集まったウスメバル幼魚の群れ。
右：新規事業で出番を待つウスメバル幼魚。（平成13年4月18日撮影）

目次

～21世紀を迎えて～	2
所長 足助 光久	
平成13年度事業計画と分担	
浅海環境部	2
ほたて貝部	3

魚類部	3
磯根資源部	4
平成13年度水産増殖センター職員配置	5
新年度加入メンバーより一言	5
平成13年度年間主要行事予定	6

- 21世紀を迎えて -

所 長 足 助 光 久

永かった冬もやっと過ぎ、北国青森にも春らしい日々が巡ってきました。生物は自然の変化を鋭敏に感じ取り、ホタテガイの産卵から稚貝の付着や桜の開花などへと着実に向かっています。

さて、いよいよ21世紀初年度となる平成13年度がスタートしました。20世紀における我国水産業は、戦後まもなく国民に対する食料確保のため、豊かな漁場を背景に漁船・漁具の発達、有り余る労働力等により沿岸から沖合そして遠洋へと大いなる発展を遂げてまいりました。しかしながら、近年の状況は誠に厳しく、21世紀においても引きつづき資源回復、環境保全、後継者の育成、魚価・流通対策など多くの課題に対し、それぞれの立場や役割のなかで的確に対処していかなければなりません。

このような状況を踏まえ、国では現在、水産基本法および関連法の制定を進めているところであ

り、また、省庁再編や研究機関・大学等の独立行政法人化が進むなど組織体制も変わりつつあります。

一方、県では、今年度から農林部と水産部を統合し農林水産部として、わかりやすく、効率的な組織を目指すこととしております。水産増殖センターもこれまでの総務室、漁場部、ほたて貝部、魚類部、貝類部、海草部の一室5部体制から総務室、浅海環境部、ほたて貝部、魚類部、磯根資源部の一室4部体制に新しく組織替えとなりました。

21世紀を迎え当センターでは、栽培漁業や資源管理型漁業の推進に関連した各種増養殖技術の開発ならびに陸奥湾の環境モニタリング等本県沿岸漁業の健全な発展のため、新体制のもと職員一同頑張っている所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

平成13年度事業計画と分担

浅海環境部

部 長 三 津 谷 正

4月の水産部から農林水産部への組織改編とともに、昨年度までの漁場部から浅海環境部へと部の名称が変わりました。また、定例人事異動により、漁港漁場整備課に転出した伊藤前部長に代わって、三津谷が浅海環境部長を務めることになりました。このほか所内異動により、青山研究管理員が磯根資源部へ移り、ほたて貝部から木村主幹が、また旧貝類部から柳谷総括主任研究員が加わりました。

浅海環境部では以前の漁場部同様に、陸奥湾の海況把握と漁場環境の監視、そしてホタテガイなどの毒化監視を主要な業務として、次のような調査や研究を続けます。

1. 浅海定線調査

陸奥湾の水温や塩分、溶存酸素などの現況と変動傾向の把握を目的に、試験船「なつどまり」（濱田船長、長津機関長、吹越甲板長、逢坂機関員、本堂甲板員）を運行し、毎月1回、定期的に海洋観測を行う。（今井ほか、試験船の運行管理は木村ほか）

2. 漁場環境総合監視調査

陸奥湾の漁場環境の監視と保全のための基礎データ収集を目的に、栄養塩などの水質調査（毎月1回）と生物モニタリング調査（底質と底生生物調査、7月と9月の年2回）を行う。この調査は浅海定線調査とともに「なつどまり」を運航して行う。（今井ほか）

3. 海況自動観測

海況自動観測ブイシステム（ブイロボット）を運用し、陸奥湾の水温、塩分、流れ、溶存酸

素と洋上の風、気温を毎時連続的に観測する。この観測結果などをもとに、海況予報高度化技術確立調査として陸奥湾海況情報を発行し、またホタテガイ採苗速報の発行に向けて海況情報を提供し支援する。(長崎ほか)

4. 貝毒発生監視調査

ホタテガイなど二枚貝の食品としての安全性

確保を目的に、青森県沿岸域の二枚貝の下痢性貝毒とまひ性貝毒による毒化状況や毒化原因プランクトンの出現動向を調査する。また、ホタテガイの対EU輸出の再開に向け、その生産海域モニタリングとしての貝毒調査なども行う。(柳谷ほか)

ほたて貝部

部長 小坂 善信

貝類部がなくなったため、旧貝類部の仕事の一部をほたて貝部が引き継ぐことになりました。さらに、4月の人事異動により、ほたて貝部のメンバーにも交代がありました。木村主幹が浅海環境部に配置換えとなり、青森地方水産業改良普及所から中西総括主任研究員が着任しました。むつ水産事務所に転出した吉田雅範技師に代わり、漁業振興課から吉田達主任研究員が着任しました。川村技能技師が魚類部に配置換えとなり、代わりに鹿内技能技師が転入してきました。留任の小職と大水技師ともどもよろしくお願いします。

本年度の主な事業は次のとおりです。

1. ホタテガイ増養殖試験

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施します。(大水ほか)

2. ホタテガイ新基準種苗養殖技術研究

新評価基準に基づき選別した種苗の成貝出荷までの養殖生産を実証するとともに、養殖方法別に質的評価を行い、高品質貝生産のための養

殖技術を検討します。(吉田ほか)

3. 海面養殖業高度化事業

適正な養殖管理と良質貝の生産等によりホタテガイ養殖の高度化を図るための総合事業を実施しますが、センターでは陸奥湾2カ所で「ホタテ養殖ごよみ」に基づいて養殖実証試験を行います。(大水ほか)

4. ホタテガイ増殖漁場評価試験

地まき増殖の生産回復に必要な各種要因を明らかにするとともに、放流種苗の育成管理方法を検討します。(大水ほか)

5. ホタテガイ適正収容量調査

ホタテガイの持続的安定生産のために、陸奥湾における適正収容量の見直しのための基礎調査を行います。(吉田ほか)

6. ミネフジツボ養殖手法開発試験

ミネフジツボの採苗、育成技術及び養殖技術を開発し、ホタテガイ養殖の複合経営を図ることを目指します。(中西)

7. カキ類増殖技術開発試験

カキ類の分布や成熟過程を調べるとともに、日本沿岸で主に生息しているイワガキの人工採苗技術の開発を行うほか、天然海域における生育試験を行います。(中西)

魚 類 部

部長 塩 垣 優

部員のメンバーで入れ替えがありました。鹿内技能技師がほたて貝部へ、替わって同部から川村技能技師が転入しました。川村技能技師は前にも魚類部の経験があり4月年度始めとともに即戦力になっています。佐藤総括研究管理員は青森地方

水産業改良普及所へ転出されました。以上、非常勤職員も含め1名減の8名体制でやっていきます。

今年度は下記の2新規県単事業が始まります。主な事業は以下のとおりです。

1. うすめばる量産技術開発事業(新規)

長年の夢であった30トン親魚養成用水槽の海水冷却装置施設整備費が認められ、今年の夏場までに間に合わせるべく急ぎ入札事務を進め

ています。天然親魚の確保が問題のあるところですが小泊村・漁協の協力を得て乗り切るつもりです（松坂ほか）。

2. 海産魚類防疫対策事業（新規）

養殖海産魚類（魚類に限定されず、水産動物すべてを含む）の魚病の蔓延を適切に防止し被害を最小限に止めるための指導・検査等を行います。これまで、海産魚の魚病の予算は全くついていなかったのですが、ようやく養殖新法の施行とともに予算が認められました。何かあれば、連絡してください。早速、飛んで行きます（松坂ほか）。

ちなみに、海面での魚類防疫員に魚類部では塩垣、松坂、山田の3名が任命されており、万

一の場合には立ち入り検査等を権限をもっていきます。

3. 資源増大技術開発事業（まだら）

（松坂ほか）

4. 資源増大技術開発事業（まこがれい）

（山田ほか）

5. 資源増大技術開発事業（くろそい）

（山田ほか）

6. ひらめ無眼側黒化防止対策試験

（松坂ほか）

7. 沿整関係 まだら基礎調査（松坂ほか）

8. 沿整関係 くろそい養殖試験（山田ほか）

9. 沿整関係 うすめばる生態調査（川村ほか）

磯根資源部

部長 高梨勝美

当センターの組織変えにより、貝類部長から磯根資源部長に配置換えになりましたのでよろしくお願いします。

磯根資源部のメンバーは、仲村総括研究管理員、青山研究管理員、桐原総括主任研究員、山内技師の5名体制となりましたが、業務内容は、旧海藻部と旧貝類部の一部事業を引き継いで、本年度は次のような研究・試験業務を推進します。

1. 地先漁場管理・資源活用事業（新規）

佐井村から東通村の沿岸で、底質、海藻、ウニ、アワビなどの状況を調べ、藻場・水産資源マップを作成するほか、日本海と陸奥湾の地先漁場管理・資源活用指針作成のための補完調査を行います。（仲村ほか）

2. こんぶ藻場維持再生産技術開発研究

下北半島沿岸で磯焼け対策技術やマコンブ群落の効果的な維持管理技術を開発します。（桐原ほか）

3. ほんだわら類増殖技術開発試験

本県日本海沿岸の藻場拡大を図るため、ヨレモクやヤツマタモクなどのホンダワラ類の生態・生活史を研究するとともに、採苗技術や群落形成手法を開発し、藻場維持管理指針を作成します。（山内ほか）

4. 陸奥湾海藻藻場造成開発試験

ウニ類やナマコの餌料、魚類幼稚仔の住み場、

漁場浄化等の役割を持つ海草藻場の造成技術を開発するため、生育特性や増殖方法を検討します。（仲村ほか）

5. 地域特産海藻養殖技術開発試験（新規）

未・低利用ながら食用として優れた特性をもつアオワカメとスジメの2種について、人工採苗や養殖技術を開発するとともに、県水産物加工研究所・普及所や漁協婦人部などとの連携を図り、利用方途の検討を行います。（山内ほか）

6. 重要貝類増殖試験

日本海沿岸の重要資源であるサザエについて、天然採苗試験などを行い、粗放的な栽培漁業の可能性について検討します。（青山ほか）

これらの事業のほか

・バイテク種苗作出技術開発試験

・えごのり増養殖定着促進研究

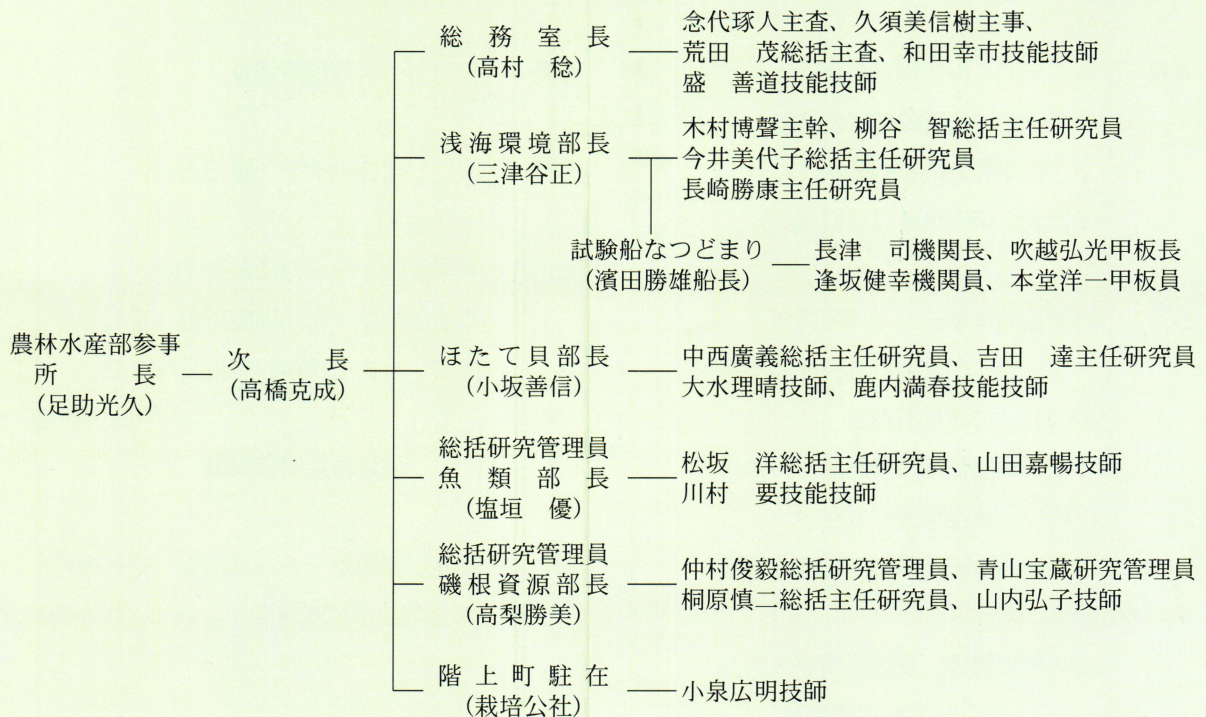
・電源立地地域温排水対策事業関連調査

・沿岸漁場整備開発事業関連調査

などを行います。



平成13年度水産増殖センター職員配置



〈新年度加入メンバーより一言〉



ほたて貝部 総括主任研究員 中 西 廣 義

4月の人事異動により、青森地方水産業改良普及所から水産増殖センターに勤務となりました。増殖センター勤務は4回目となります。今までのセンター勤務では主に魚類の種苗生産に携わってきましたが、今回は、ほたて貝部にお世話になります。事業担当は貝類部がなくなったため、ミネフジツボとカキ類等を担当することになりました。慣れない仕事で大変ですが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



ほたて貝部 主任研究員 吉 田 達

このたび、漁業振興課から水産増殖センターへ配属となりました。平成元年に県庁に採用以来、初めての試験研究機関での勤務となります。赴任早々、普及員時代を思い出しながら、ホタテのラーバ調査、母貝調査などを行っています。

行政経験が長かったせいもあり、研究職としてとまどう面も多々あると思いますが、思考回路を切り替えて、一生懸命がんばりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

趣味は、釣りとスキーです。釣り場やスキー場で見かけたら声をかけてください。



階上町駐在 技師 小 泉 広 明

このたびの異動で、水産増殖センター配属、階上町駐在（青森県栽培漁業公社勤務）となりました。増殖センターへの所属は2度目になります。

栽培公社では、アワビ担当ということで、これまでフィールド調査しか経験がなく、生き物を育てるのは初めての経験です。栽培公社には20年選手のおばちゃんが3人、他の人も経験が長いので、毎日みんなに聞きながら、腰を痛くしつつ作業に、アワビ種苗生産の勉強にがんばっているところです。

《平成13年度年間主要行事予定》

- 4月 ○ホタテガイ採苗情報会議（4－5月）
○ホタテガイ母貝成熟状況調査（4－5月）
○マダラ中間育成試験開始（脇野沢村）
○陸奥湾海藻場修復試験開始
- 5月 ○春季養殖ホタテガイ実態調査
○ホタテガイ付着稚貝調査（陸奥湾内）
○アカガイ付着稚貝調査
○マダラ中間育成試験開始（佐井村）
○クロソイ種苗生産試験開始
○ウスメバル天然若魚中間育成試験
（センター）
○地先漁場管理・資源活用事業調査
（佐井村～東通村、5－10月）
○磯焼け対策新技術実証調査
（佐井村～大間町奥戸）
○マコンブ増殖試験開始（大間町）
○ウニ増殖試験開始（東通村）
- 6月 ○ホタテガイ付着稚貝調査（陸奥湾内）
○ホタテガイ付着稚貝情報会議
○ホタテガイ養殖管理情報会議（6－9月）
○マダラ放流効果調査（脇野沢村～佐井村）
○尻屋磯根資源調査
○地域特産海藻養殖技術開発試験
（深浦町、東通村、八戸市）
○親魚棟30トン水槽用海水冷却装置竣工
- 7月 ○アカガイ・ラーバ調査（7－9月）
○サザエ天然採苗試験開始
- 8月 ○アカガイ付着稚貝調査
- 9月 ○クロソイ標識放流（脇野沢村）
- 10月 ○秋季養殖ホタテガイ実態調査
○地まきホタテガイ実態調査（10－11月）
○エゴノリ人工採苗研修生受け入れ
（10－12月）
○コンブ藻場維持管理試験
- 11月 ○ミネフジツボ・ラーバ調査（12－3月）
○マコガレイ標識放流（三沢市、六ヶ所村泊）
- 12月 ○ホタテガイ母貝成熟状況調査開始
（12－5月）
○マダラ種苗生産試験開始
○エゴノリ増殖試験
（今別町、三厩村、深浦町）
- 1月 ○ミネフジツボ採苗試験（1－3月）
○水産試験研究成果報告会
- 2月 ○マコガレイ種苗生産試験開始
○コンブ藻場維持管理研究報告会
- 3月 ○ホタテガイ天然採苗情報予報協議会
- 周年 ○海況自動観測と情報提供
- 毎月 ○貝毒発生監視調査
○浅海定線観測（陸奥湾）
○漁場環境総合監視調査